

# 視点

初めて赤城のヒメギフチョウを観察したのは3年前の5月のことであった。早春の雑木林で妖精のように舞う蝶を一目見ただけで、その美しさに心を奪われてしまった。カタクリやスマシの花にとまって吸蜜するシーンは、この世で生命がもつとも美しく輝く瞬間ではないだろうか。4月下旬に出現し、交尾や産卵をすませ、早々と一生を終えてしまふ薄命さにも心打たれるものがあつた。



千葉県市川市

唐沢 孝一

NPO:法人自然観察大学副学長

## 保護活動は群馬の誇り

1940年に発見されたものの、70年代には激減し消滅したと考えられている。赤城で特筆すべきは、地元

の命の燈火がろうろうして今日に引き継がれている。赤城で特筆すべきは、地元

の生息の学習、保護のための看板づくり、雑木林保全のための植樹、ウスバサイシンの移植など、父母や地域の協力を得ながら学校あげて取り組んでいる。

「学校(児童)」、「地域(父母)」、「研究者(愛する集まり)」の三者が一体となつての南雲小学校による赤城姫の保護活動は、07年度の全国野生生物保護実績発表大会で文部科学大臣奨励賞に輝いている。筆者はたまたまその時の審査員の一人として児童による成果発表を拝見したが、内容も発表態度も実に立派であつた。

赤城姫がいつまでも生息し、それを守ろうとする人々がいることは、群馬の誇りである。筆者も群馬県出身者の一人として赤城姫にエールを送るとともに、できうる限りの応援をしたいと思つている。

### 【略歴】

嬬恋村出身。前橋高、東京教育大卒。都立高校の生物教師を経て2008年まで埼玉大講師。1982年に都市鳥研究会を創設、都会の鳥の生態を研究。

### 赤城のヒメギフチョウ

「赤城姫を愛する集まり」が高まれば、一部のマニアが捕獲して激減するという悪循環が繰り返される。ヒメギフチョウの愛称だ。メギフチョウは、常に絶滅の危険にさらされている。赤城のヒメギフチョウは